

## 令和5年度環境研究総合推進費における新規課題の採択決定について

令和5年3月17日(金)

環境研究総合推進費は、環境政策への貢献・反映を目的とした競争的研究資金制度です。「環境研究・環境技術開発の推進戦略」（令和元年5月環境大臣決定）に基づき、重点課題やその解決に資するテーマを提示した上で、広く産学民官の研究機関の研究者から提案を募り、外部有識者等による事前評価を経て採択された課題について、研究開発を実施します。

令和5年度から開始する新規課題については、令和4年9月16日(金)から10月21日(金)まで公募を行い、審査の結果、今般、環境問題対応型研究37課題、革新型研究開発(若手枠)19課題、戦略的研究開発(I)1プロジェクト(20課題)、戦略的研究開発(II)2プロジェクト(18課題)を採択することとしましたのでお知らせします。

## 1. 令和5年度新規課題の採択について

令和5年度新規課題の公募は、「環境研究・環境技術開発の推進戦略」（令和元年5月環境大臣決定）(以下「推進戦略」という。)で示された5つの研究領域とそれらに対応する重点課題を対象に行い、外部有識者等からなる環境研究推進委員会(別添資料1参照)による書面評価及びヒアリング評価を経て、下表の通り採択課題を決定しました。(採択課題の詳細は別添資料2の通り。)

令和5年度新規課題の採択課題数(公募区分別)

公募区分	年間研究開発費の支援規模 (間接経費・消費税を含む)	研究期間	採択課題数 (申請件数)
(1) 環境問題対応型研究(一般課題、 技術実証型)	4,000万円以内	3年以内	26(180)
(2) 環境問題対応型研究(ミディアム ファンディング枠)	2,000万円以内	3年以内	11(77)
(3) 次世代事業(補助率1/2) ア. 「技術開発実証・実用化事業」 イ. 「次世代循環型社会形成推進 技術基盤整備事業」	ア. 1億円以内 イ. 2億円以内	3年以内	0(2)
(4) 革新型研究開発(若手枠)	600万円以内	3年以内	14(45)
	300万円以内		5(15)
(5) 戦略的研究開発(I)	3億円以内	5年以内	20(21)

(6)戦略的研究開発（Ⅱ）	1億円以内	3年以内	18（18）
---------------	-------	------	--------

## 2. 採択課題の内訳

令和5年度新規課題の採択課題数(研究領域別)

研究領域名		統合	気候変動	資源循環	自然共生	安全確保
採択課題数		17 課題	7 課題	12 課題	8 課題	12 課題
(内訳)						
環境問題 対応型 研究	一般課題、 技術実証型	7	3	5	6	5
	ミディアム ファンディング枠	5	2	2	0	2
革新型 研究開 発（若 手枠）	600万円以内枠	4	1	4	2	3
	300万円以内枠	1	1	1	0	2

- ・「環境問題対応型研究」については、5つの研究領域の37課題を採択しました。
- ・「革新型研究開発（若手枠）」については、一定の採択枠を設けて公募を行い、5つの研究領域において19課題を採択しました。

令和5年度新規課題の採択課題数(戦略的研究開発)

	プロジェクト名	採択数
戦略的 研究開発（Ⅰ）	S-21 「生物多様性と社会経済的要因の統合評価モデルの構築と社会適用に関する研究」	20 課題
戦略的 研究開発（Ⅱ）	SⅡ-10「海底プラスチックごみの実態把握及び回収支援に向けた手法・技術の開発」	8 課題
	SⅡ-11「世界の主要都市に関する気候安全保障リスクの評価」	10 課題

※ 戦略的研究開発（Ⅰ）（Ⅱ）はサブテーマ単位で採択

- ・戦略的研究開発（Ⅰ）については、(S-21)「生物多様性と社会経済的要因の統合評価モデルの構築と社会適用に関する研究」のプロジェクトを構成する20課題を採択しました。

- ・戦略的研究開発（Ⅱ）については、（SⅡ-10）「海底プラスチックごみの実態把握及び回収支援に向けた手法・技術の開発」のプロジェクトを構成する8課題、（SⅡ-11）「世界の主要都市に関する気候安全保障リスクの評価」のプロジェクトを構成する10課題を採択しました。

### 【参考情報：公募区分について】

#### (1) 環境問題対応型研究

個別又は複数の環境問題の解決に資する研究プロジェクトです。想定される研究成果により環境政策への貢献が期待できる研究課題を広く公募しました。

#### (2) 環境問題対応型研究（ミディアムファンディング枠）

基本的な仕組みや目的は、上記（1）の環境問題対応型研究と同様ですが、自然科学分野から人文社会科学分野まで多様な分野からの研究提案、若手研究者からの研究提案など、より多くの研究提案に機会を提供することを目的として設置した申請枠で、研究開発費の年間支援規模が全研究期間2,000万円/年以内の規模で研究を実施する課題を対象として公募を行いました。

#### (3) 環境問題対応型研究（技術実証型）

基本的な仕組みや目的は、上記（1）の環境問題対応型研究と同様ですが、技術開発を目的とする課題について、基礎、応用研究によって得られた技術開発成果の社会実装を目指して、当該技術の実用可能性の検証等を行う課題を公募しました。過去に採択された環境問題対応型研究によって得られた技術開発成果の社会実装を目指して、再度、技術実証型に応募することも可能です。推進費以外の研究によって得られた技術開発成果をもって応募することも可能です。

#### (4) 次世代事業

環境問題対応型研究で得られた技術開発又は推進戦略において重点的に取り組むべき課題の解決に資する技術開発であって、産学連携等により、実証・実用化を図る事業です。

全ての研究対象領域における事業を対象とした「ア. 技術開発実証・実用化事業」と、資源循環領域のうち、廃棄物の安全かつ適正な処理、循環型社会の形成推進に関する「イ. 次世代循環型社会形成推進技術基盤整備事業」の公募を行いました。

#### (5) 革新型研究開発（若手枠）

新規性・独創性・革新性に重点を置いた若手研究者向けの募集枠です。研究代表者及び研究分担者の全てが「令和5年4月1日時点で40歳未満であること」、又は「令和5年4月1日時点で博士の学位取得後8年未満であること」が要件です。

#### (6) 戦略的研究開発（Ⅰ）

我が国が世界に先駆けて、又は国際的な情勢を踏まえて、特に先導的に重点化して進めるべき大規模な研究プロジェクト又は個別研究の統合化・シナリオ化を行うことによって我が国が先導的な成果を上げることが期待される統合的な大規模の研究プロジェクトです。あらかじめ環境省が研究プロジェクトを構成する研究テーマを提示し、各テーマを構成する研究課題（サブテーマ）を公募しました。

(7) 戦略的研究開発（Ⅱ）

我が国が国際的に先駆けて又は国内外の情勢を踏まえて、特に短期間（3年以内）で重点的に進めるべき中規模の研究プロジェクトです。あらかじめ環境省が研究プロジェクトを構成する研究テーマを提示し、各テーマを構成する研究課題（サブテーマ）を公募しました。

○環境再生保全機構ホームページ「環境研究総合推進費サイト」

<https://www.erca.go.jp/suishinhi/koubo/>

環境省大臣官房総合政策課環境研究技術室

代表 03 - 3581 - 3351

直通 03 - 5521 - 8239

室長 加藤 学

室長補佐 寺川 貴裕

係長 多賀 洋輔

独立行政法人環境再生保全機構

環境研究総合推進部研究推進課

直通 044 - 520 - 9509

課長 富永 貴寿 (内線 601)

副主幹 相澤 絵美 (内線 622)

主事 若月 遥 (内線 624)

係員 田中 藍子 (内線 626)

係員 玉井 孝典 (内線 629)

令和5年度環境研究総合推進費新規採択研究課題  
環境問題対応型研究・革新型研究開発(若手枠)

課題番号	研究課題名	研究代表者	研究代表機関
統合領域(統合部会)			
【重点課題】 ①持続可能な社会の実現に向けたビジョン・理念の提示 ②ビジョン・理念の実現に向けた研究・技術開発 ③持続可能な社会の実現に向けた価値観・ライフスタイルの変革 ④環境問題の解決に資する新たな技術シーズの発掘・活用 ⑤災害・事故に伴う環境問題への対応に貢献する研究・技術開発 ⑥グローバルな課題の解決に貢献する研究・技術開発(「海洋プラスチックごみ問題への対応」)			
環境問題対応型研究(一般課題、技術実証型)			
1-2301	マイクロプラスチックの水及び底質経由の曝露による海洋生物への影響評価	大嶋 雄治	九州大学
1-2302	わが国の脱炭素社会実現に向けた都道府県の脱炭素計画に係る課題の統合的分析	金森 有子	国立研究開発法人国立環境研究所
1-2303	自然外力の増加に適応する水環境保全に向けた有明海・八代海等の気候変動影響評価	矢野 真一郎	九州大学
1-2304	AIとリモートセンシングがつなぐ街から海岸までの包括的プラスチックごみ観測網の構築	加古 真一郎	鹿児島大学
1-2305	ICTを用いた地域のCO <sub>2</sub> の見える化システムと、それを用いた脱炭素事業拠点事業・脱炭素政策の評価プロセスの開発	藤田 壮	東京大学
1-2306	連続監視と網羅分析による水質事故の検知・対策手法の開発と流域モニタリングの最適化	小坂 浩司	国立保健医療科学院
1-2307	極端高温等が暑熱健康に及ぼす影響と適応策に関する研究	岡 和孝	国立研究開発法人国立環境研究所
環境問題対応型研究(ミディアムファンディング枠)			
1MF-2301	法学および工学的アプローチの連携による災害・事故時における化学物質と環境リスク管理制度並びに情報基盤に関する研究	鈴木 規之	国立研究開発法人国立環境研究所
1MF-2302	農用地における被覆肥料由来マイクロプラスチックの排出実態の全容解明	勝見 尚也	石川県立大学
1MF-2303	平時から災害事故時を対象とした化学物質リスクガバナンスに向けた基盤的手法の提案	東海 明宏	大阪大学
1MF-2304	災害・事故に伴う迅速な化学物質曝露・リスク判断のための現地対応型評価デバイスの開発	三宅 祐一	横浜国立大学
1MF-2305	地域脱炭素に向けたリベラルアーツ環境教育の展開と検証手法の構築	木原 久美子	熊本高等専門学校
革新型研究開発(若手枠) ※RF:年間支援規模600万円以内、RL:年間支援規模300万円以内			
1RF-2301	高速で駆動するグリーン水素とアジピン酸の同時合成プロセスの開発	小畑 圭亮	東京大学
1RF-2302	環境調和型重水素化プロセスの開拓	矢崎 亮	九州大学
1RF-2303	マイクロプラスチックと吸着物質の相互作用による海洋汚染促進効果の解明	野呂 和詞	静岡県立大学
1RF-2304	未利用熱を利用した大気中CO <sub>2</sub> の直接・高効率化学転換システム	岸本 史直	東京大学
1RL-2301	バイオ触媒による革新的CO <sub>2</sub> 資源化	草野 修平	国立研究開発法人理化学研究所
気候変動領域(気候変動部会)			
【重点課題】 ⑦気候変動の緩和策に係る研究・技術開発 ⑧気候変動への適応に係る研究・技術開発 ⑨地球温暖化現象の解明・予測・対策評価			
環境問題対応型研究(一般課題、技術実証型)			
2-2301	北極気候に関わるエアロゾルの長期的変化の把握と放射・気候影響評価	松井 仁志	名古屋大学
2-2302	気候変動適応と緩和に貢献するNbS-流域スケールでの研究-	西廣 淳	国立研究開発法人国立環境研究所
2-2303	全国主要都市に対する暑熱・強風・雪の気候変動脆弱性アトラスの作成	稲津 将	北海道大学
環境問題対応型研究(ミディアムファンディング枠)			
2MF-2301	長良川流域における森・里・川の気候変動適応が中山間地域の生業の持続性とウェルビーイングに与える影響の研究	原田 守啓	岐阜大学
2MF-2302	底生動物の水質・底質の健全化に資する機能評価と彼らの減少がもたらす損害の推定	永田 貴丸	滋賀県琵琶湖環境科学研究センター
革新型研究開発(若手枠) ※RF:年間支援規模600万円以内、RL:年間支援規模300万円以内			
2RF-2301	常温常圧中性におけるCO <sub>2</sub> からギ酸へのバイオ資源化	宋和 慶盛	京都大学
2RL-2301	閉鎖性水域の貧酸素化の予防改善方法の提案	公江 仁一	神戸大学

課題番号	研究課題名	研究代表者	研究代表機関
資源循環領域(資源循環部会)			
【重点課題】 ⑩地域循環共生圏形成に資する廃棄物処理システムの構築に関する研究・技術開発 ⑪ライフサイクル全体での徹底的な資源循環に関する研究・技術開発 ⑫社会構造の変化に対応した持続可能な廃棄物の適正処理の確保に関する研究・技術開発			
環境問題対応型研究(一般課題、技術実証型)			
3-2301	プラスチック循環の推進と調和する化学物質管理に向けた樹脂添加剤の循環実態の解明	梶原 夏子	国立研究開発法人国立環境研究所
3-2302	無機酸と有機溶媒を代替可能な環境調和型レアメタルリサイクル溶媒の開発	後藤 雅宏	九州大学
3-2303	最終処分場浸出水等に含まれるPOPs等の排出機構の解明とリスク低減技術の開発	矢吹 芳教	地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所
3-2304	浄化槽システムの脱炭素化に向けた維持管理・転換方策の提案とシナリオ設計	中久保 豊彦	お茶の水女子大学
3-2305	下水道資源等を利用した良質な飼料作物栽培で目指す地域循環共生圏	渡部 徹	山形大学
環境問題対応型研究(メディアムファンディング枠)			
3MF-2301	高電圧パルス破碎を利用した複合材料の効率的処理と樹脂の回収	飯塚 淳	東北大学
3MF-2302	空間電力合成マイクロ波加熱を利用した有機廃棄物の高速炭化システムの開発	椿 俊太郎	九州大学
革新型研究開発(若手枠) ※RF:年間支援規模600万円以内、RL:年間支援規模300万円以内			
3RF-2301	ナノ空間制御による有害フッ素化合物の回収・分解に係る革新的技術の創出	滝本 大裕	琉球大学
3RF-2302	ポリエステル繊維の低エネルギーケミカルリサイクル技術の開発	田中 真司	国立研究開発法人産業技術総合研究所
3RF-2303	有機廃棄物の持続可能な高度分解処理を実現する光自己再生型不均一系フェントン触媒の開発	福 康二郎	関西大学
3RF-2304	社会的受容性に着目したバイオマス資源循環利用促進のためのライフサイクル思考	兵法 彩	東京大学
3RL-2301	バイオエタノールで動作するポータブル固体酸化物形燃料電池	山田 哲也	東京工業大学

自然共生領域(自然共生部会)			
【重点課題】 ⑬生物多様性の保全に資する科学的知見の充実や対策手法の技術開発に向けた研究 ⑭生態系サービスの持続的な利用やシステム解明に関する研究・技術開発			
環境問題対応型研究(一般課題、技術実証型) ※G:技術実証型			
4-2301	ゲノム情報と正確な同定にもとづく維管束植物の統合データベース構築と多様性指標・保全優先度の地図化技術の開発	矢原 徹一	一般社団法人九州オープンユニバーシティ
4-2302	生物多様性の時間変化をとらえるデータ統合と指標開発	角谷 拓	国立研究開発法人国立環境研究所
4-2303	生物多様性保全・気候変動対策・地域振興を最適化させる自然公園設計:北海道東部・根釧地方における学際的研究と実践	仲間 雅裕	北海道大学
4-2304	TNFDIに向けた生物多様性評価指標の開発とサプライチェーン分析ツールの開発	金本 圭一朗	総合地球環境学研究所
4-2305	歴史が生み出す二次的自然のホットスポット:環境価値と保全効果の「見える化」	田中 健太	筑波大学
4G-2301	ヒアリなどの侵略的外来生物の被害予測にもとづく効率的かつ確実な防除対策の研究開発	辻 瑞樹	琉球大学
革新型研究開発(若手枠) ※RF:年間支援規模600万円以内、RL:年間支援規模300万円以内			
4RF-2301	生物多様性ビッグデータの持続的創出に資する環境DNA分析手法の高度化	中臺 亮介	国立研究開発法人国立環境研究所
4RF-2302	有用天敵昆虫の保護に向けた、植物用殺菌剤散布による寄生バチ類の“見えざる死”の実態解明	藏満 司夢	筑波大学

課題番号	研究課題名	研究代表者	研究代表機関
安全確保領域(安全確保部会)			
【重点課題】 ⑮化学物質等の包括的なリスク評価・管理の推進に係る研究 ⑯大気・水・土壌等の環境管理・改善のための対策技術の高度化及び評価・解明に関する研究			
環境問題対応型研究(一般課題、技術実証型) ※G:技術実証型			
5-2301	廃棄窒素削減に向けた統合的窒素管理に関する研究	仁科 一哉	国立研究開発法人国立環境研究所
5-2302	データ非依存型取得法による環境汚染物質の定量デジタルアーカイブ手法の開発	中島 大介	国立研究開発法人国立環境研究所
5-2303	実環境試料に基づく甲状腺ホルモン作用かく乱化学物質の同定・分級と複合的健康影響の評価法開発	久保 拓也	京都大学
5-2304	魚類急性毒性試験の動物福祉に配慮した試験への転換に向けた研究	山岸 隆博	国立研究開発法人国立環境研究所
5G-2301	大気に浮遊するアスベストの自動計測装置の技術実証	黒田 章夫	広島大学
環境問題対応型研究(ミディアムファンディング枠)			
5MF-2301	2050カーボンニュートラル環境での国内地表オゾンの予測と低オゾン・脱炭素コベネフィット戦略の提示	永島 達也	国立研究開発法人国立環境研究所
5MF-2302	自発性摂餌開始前メダカ仔魚を用いた甲状腺ホルモン系内分泌攪乱作用の新規in vivoスクリーニングと有害性評価法の検討:生態リスク評価のための両生類試験との相関性	小林 亨	静岡県立大学
革新型研究開発(若手枠) ※RF:年間支援規模600万円以内、RL:年間支援規模300万円以内			
5RF-2301	環境水中の薬剤耐性菌の網羅的ゲノム解析	五味 良太	京都大学
5RF-2302	ドローン計測とシームレス領域モデルに基づく越境する光化学オキシダントの立体構造の解明	板橋 秀一	一般財団法人電力中央研究所
5RF-2303	メダカを用いた甲状腺ホルモンかく乱物質の検出試験法の開発	堀江 好文	神戸大学
5RL-2301	日本人成人および小児の曝露係数データベースの構築に関する研究	高木 麻衣	国立研究開発法人国立環境研究所
5RL-2302	LEDの光制御による睡眠および寿命に及ぼす影響に関する実験的研究	岡村 和幸	国立研究開発法人国立環境研究所



令和5年度環境研究総合推進費新規採択研究課題 戦略的研究開発(Ⅰ)

S-21 生物多様性と社会経済的要因の統合評価モデルの構築と社会適用に関する研究 プロジェクトリーダー: 齊藤 修 公益財団法人地球環境戦略研究機関			
課題番号	テーマ名・サブテーマ名	テーマリーダー・サブテーマリーダー	所属機関
<b>S-21-1</b>	<b>社会・生態システムの統合評価モデル構築</b>	<b>山野 博哉</b>	<b>国立研究開発法人 国立環境研究所</b>
S-21-1(1)	社会・生態システムの統合評価モデル開発	山野 博哉	国立研究開発法人 国立環境研究所
S-21-1(2)	価値・行動変容と生態系動態を結合させたエージェントベースモデル開発	中丸 麻由子	東京工業大学
S-21-1(3)	陸域における生物多様性・生態系サービス評価モデル開発	山浦 悠一	国立研究開発法人 森林研究・整備機構
S-21-1(4)	海域における生物多様性・生態系サービス評価モデル開発	山北 剛久	国立研究開発法人 海洋研究開発機構
<b>S-21-2</b>	<b>シナリオと介入策の組合せと評価手法の開発</b>	<b>齊藤 修</b>	<b>公益財団法人 地球環境戦略研究機関</b>
S-21-2(1)	将来シナリオと介入策の組合せの作成・国際展開	齊藤 修	公益財団法人 地球環境戦略研究機関
S-21-2(2)	人口・国土・インフラの将来シナリオと介入策	松橋 啓介	国立研究開発法人 国立環境研究所
S-21-2(3)	ライフスタイルの将来シナリオと介入策	渡部 厚志	公益財団法人 地球環境戦略研究機関
S-21-2(4)	社会・消費・産業のネクサス構造の可視化と介入策	本下 晶晴	国立研究開発法人 産業技術総合研究所
<b>S-21-3</b>	<b>価値・行動・文化と生物多様性の相互関係分析</b>	<b>深町 加津枝</b>	<b>京都大学</b>
S-21-3(1)	自然がもたらす多様な地域文化と生物多様性	深町 加津枝	京都大学
S-21-3(2)	自然がもたらす価値とその背景要因	竹内 憲司	京都大学
S-21-3(3)	生物多様性に関する価値の協働創出と参加型教育デザイン	福永 真弓	東京大学
S-21-3(4)	複数の価値観と行動の諸側面の関係の可視化	松下 京平	滋賀大学
<b>S-21-4</b>	<b>統合評価モデルとの連携による全国スケールでのシナリオ分析と社会適用</b>	<b>橋本 禪</b>	<b>東京大学</b>
S-21-4(1)	生物多様性・気候変動・自然災害対策の観点から持続的な国土利用戦略の提案	橋本 禪	東京大学
S-21-4(2)	保護地域・OECM・自然再生等による生物多様性の保全効果の評価	石濱 史子	国立研究開発法人 国立環境研究所
S-21-4(3)	気候変動緩和策としての再生可能エネルギー導入と生態系への影響評価	松井 孝典	大阪大学
S-21-4(4)	自然災害に対する脆弱・頑健性の評価	臼田 裕一郎	国立研究開発法人 防災科学技術研究所
<b>S-21-5</b>	<b>地域スケールの生物多様性と社会経済的要因からなる統合評価・シナリオ分析と社会適用</b>	<b>吉田 丈人</b>	<b>東京大学</b>
S-21-5(1)	生物多様性と社会経済的要因を統合したメタ分析と地域施策の比較検討	吉田 丈人	東京大学
S-21-5(2)	里山ランドスケープを対象にした統合評価・シナリオ分析と社会適用	関島 恒夫	新潟大学
S-21-5(3)	森里川海の連環を対象とした統合評価・シナリオ分析と社会適用	重藤 さわ子	事業構想大学院大学
S-21-5(4)	都市とその周辺地域を対象とした統合評価・シナリオ分析と社会適用	加我 宏之	大阪公立大学



令和5年度環境研究総合推進費新規採択研究課題 戦略的研究開発(Ⅱ)

SII-10 海底プラスチックごみの実態把握及び回収支援に向けた手法・技術の開発 プロジェクトリーダー: 東海 正 東京海洋大学			
課題番号	テーマ名・サブテーマ名	テーマリーダー・サブテーマリーダー	所属機関
SII-10-1	海底プラスチックごみの実態把握及び回収効率の推定に係る手法・技術の開発	東海 正	東京海洋大学
SII-10-1(1)	漁業者による海底プラスチックごみの回収効率の推定手法の開発	東海 正	東京海洋大学
SII-10-1(2)	水中カメラ等の映像から海底プラスチックごみの分布等を把握する技術の開発	中嶋 亮太	国立研究開発法人 海洋研究開発機構
SII-10-2	海底プラスチックごみの回収支援に向けた手法・技術の開発	松下 吉樹	長崎大学
SII-10-2(1)	海底プラスチックごみの回収が海洋生物や海洋環境に与える影響を明らかにするための手法の確立	松下 吉樹	長崎大学
SII-10-2(2)	海底プラスチックごみが漁業活動の作業効率に与える影響を明らかにするための分析手法の開発	鈴木 健吾	国立研究開発法人 水産研究・教育機構
SII-10-2(3)	漁業者に海底プラスチックごみの回収を促す動機づけの分析手法の開発	遠藤 愛子	長崎大学
SII-10-3	海底プラスチックごみの摂食・付着による劣化等、海底における微細化の実態把握手法の構築	河村 知彦	東京大学
SII-10-3(1)	付着・底生生物の摂食による海底プラスチックごみの劣化・微細化評価手法の開発	河村 知彦	東京大学
SII-10-3(2)	生物の付着による海底プラスチックごみの劣化・微細化評価手法の開発	野方 靖行	一般財団法人 電力中央研究所
SII-10-3(3)	海底プラスチックごみの種類・劣化実態を反映した微細化評価手法の開発	鈴木 剛	国立研究開発法人 国立環境研究所

SII-11 世界の主要都市に関する気候安全保障リスクの評価 プロジェクトリーダー: 沖 大幹 東京大学			
課題番号	テーマ名・サブテーマ名	テーマリーダー・サブテーマリーダー	所属機関
SII-11-1	人口移動からの都市の気候安全保障リスク分析	沖 大幹	東京大学
SII-11-1(1)	都市重力モデルへの気候変動リスクの組み込み	沖 大幹	東京大学
SII-11-1(2)	インフラ考慮都市発展モデルへの気候変動リスクの組み込み	瀬谷 創	神戸大学
SII-11-1(3)	気候安全保障リスク評価と政策ツール化	渡邊 学	blue and tech株式会社
SII-11-2	都市のレジリエンスに係る気候変動影響統合評価	高橋 潔	国立研究開発法人 国立環境研究所
SII-11-2(1)	都市の総合的影響評価	高橋 潔	国立研究開発法人 国立環境研究所
SII-11-2(2)	都市と周辺の水資源影響評価	花崎 直太	国立研究開発法人 国立環境研究所
SII-11-2(3)	都市居住者の健康影響評価	橋爪 真弘	東京大学
SII-11-2(4)	都市と地方の食料生産影響評価	飯泉 仁之直	国立研究開発法人 農業・食品産業技術 総合研究機構
SII-11-3	非可逆的な気候変動が都市に及ぼす影響予測	平林 由希子	芝浦工業大学
SII-11-3(1)	非可逆的な気候変動リスクの都市気象災害への適用	平林 由希子	芝浦工業大学
SII-11-3(2)	大西洋子午面循環変化の物理モデル実験	岡 顕	東京大学
SII-11-3(3)	都市の気候リスク予測に資するアンサンブル実験の実施	塩竈 秀夫	国立研究開発法人 国立環境研究所